

ひかり

創刊100号記念特別号

【発行】社会福祉法人 慈雲会
 ユニット型特別養護老人ホーム 慈晃園
 地域密着型特別養護老人ホーム 慈晃園
 慈晃園デイサービスセンター
 慈晃園居宅介護支援センター
 多機能ホーム やまぐち
 本渡児童センター
 〒863-2171
 天草市佐伊津町 928 番地
 TEL0969-23-6610

慈雲会の法人沿革

昭和 48 年 5 月 4 日 社会福祉法人慈雲会設立認可

昭和 49 年 5 月 30 日 慈晃園建設工事竣工

昭和 49 年 6 月 3 日

特別養護老人ホーム慈晃園設置認可

昭和 49 年 6 月 5 日 事業開始 定員 70 名

昭和 54 年 3 月 13 日 定員増員 定員 77 名

昭和 60 年 4 月「ひかり」創刊号発行

平成 4 年 2 月 20 日 増設工事竣工

平成 4 年 3 月 2 日 デイサービス事業開始

平成 5 年 10 月 1 日

本渡市在宅介護支援センター事業開始

平成 12 年 4 月 1 日

介護保険制度導入により

短期入所生活介護施設 6 名

指定介護老人福祉施設 90 名

通所介護 25 名

居宅介護支援センター発足

平成 15 年 1 月 22 日「ひかり」50 号発行

平成 16 年 11 月 19 日

老朽化と多床室解消のため施設整備工事着工

平成 18 年 3 月 31 日

ユニット型指定介護老人福祉施設旧棟(多床室)改修工事竣工

平成 19 年 3 月 31 日在宅介護支援センター廃止

平成 24 年 4 月 1 日多機能ホームやまぐち開設

平成 28 年 7 月「ひかり」100 号発行

ひかり No. 100 内容

2 ページ：表紙で振り返る広報紙ひかり

3 ページ：ユニット通信 イルカ・真珠 ひばり・めじろ

4 ページ：デイサービスセンターコーナー 栄養課便り 他

別紙：慈雲会平成 27 年度決算報告

平成 28 年度家族会総会 訪問報告 お知らせ等

ひかり創刊号



慈晃園の広報紙『ひかり』は昭和六十年四月に創刊号が発行されました。創刊から三十年、時代が変わり、様々な変遷を経て現在に至りました。今回は一〇〇号を記念して慈晃園と広報紙『ひかり』の今までを振り返る特集号となっています。昭和六十年四月創刊号発行、平成二十八年八月一〇〇号発行ですので現在三十一歳ということになります。三十一年の歴史の一部をご覧ください。

創刊100号記念特集 表紙で振り返る広報紙ひかり

第9号：昭和63年1月発行

新年をむかえるにあたり園内で「どんどやき」が実施されていました。今となってはなかなか実施出来ない規模ですが当時は安全祈願として行われていました。



創刊号：昭和60年4月発行

「家庭とホームのパイプ役的な物がほしい・・・
そんな声の中から「ひかり」創刊の運びとなりました」
創刊号編集後記より抜粋



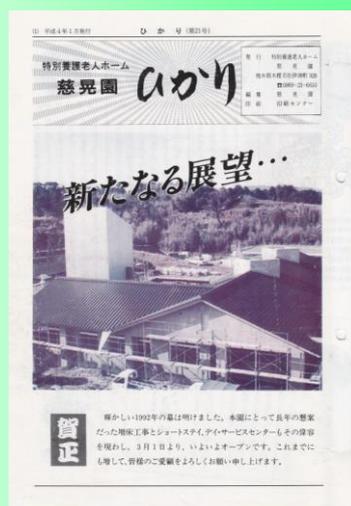
23号：平成6年6月発行

慈晃園創立二十周年時のひかりです。開設当初の写真と二十年目の写真が掲載されています。現在慈晃園は四十三周年を迎えました。



21号：平成4年1月発行

増床工事とショートステイ・デイサービスセンターの増設工事の様子が表紙となっています。
この年の三月にデイサービスセンターが事業開始となりました。



83号：平成24年4月発行

多機能ホームやまぐち開設時です。開設から早いもので四年を迎えました。



64号：平成18年7月発行

現在の慈晃園が完成した時のひかりです。この時慈晃園三十二周年の頃でした。
「こけえ来て安心、我が家のごたる、こかあふるさと楽しか暮らし」の理念の下ユニットケアがスタートしました。



～ユニット便り～ イルカ真珠ユニット

出来上がり



漬物作り



野菜作り



イルカ・真珠ユニットでは採れたてのキュウリを使って浅漬けを作りました。6月8日入居者皆様で苗植えを行いました。弦が成長すると施設長が作成した丈夫な支柱に巻き付き上へ上へとあつという間に伸び、立派な身を収穫できました。できる事を皆様で手分けし作った浅漬けは格別の味のようなものでした。

入居者様からは「次は何を作ろうか?」と話され自信に満ちた表情が見られました。



広瀬川

普段あまり話をされない方も花をみて、笑顔になってよく話をされていました。

ひばり・めじろユニット



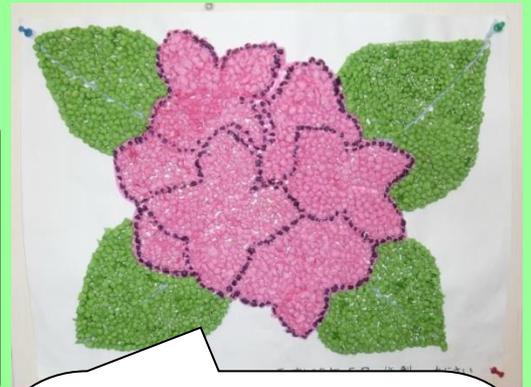
車で10分程の広瀬川へドライブをかねてつつじ見学へ行かれました。天気も良く、広瀬川沿いを散歩すると心地よい気持ちになり、穏やかな表情を見せて下さる入居者の皆様が印象的でした。ちょっとそこまでのドライブもいいものですね!



慈晃園デイサービスセンター



梅ジュースと梅酢の2種類を作りました。利用者の方にへた取りから漬け込むところまで取り組んで頂き出来上がりを楽しみにしておられます。1ヵ月程で完成の予定です。



フラワー紙を使ってアジサイの花の製作に取り組んで頂きました。

利用者の方で力を合わせて1ヵ月弱で作りました。目に付く場所に貼り付け、見る方皆「あらキレイかね」と出来上がった作品を見て喜ばれていました。苦勞して作り上げた分出来た喜びは何とも言えないものでした。



かしわ餅作りを行いました。「昔はだごならしよっちゅう作りよった」と器用にあんこを丸めたりかしわの葉にくるんだりされました。美味しいお茶をいれペロリと食べてしまわれました。



これは今から約30年前、慈晃園の初代園長である川上慈晃氏が、「ひかり」創刊号に載せられた貴重な一筆です。今回、初代園長の記事を挙げさせていただきましたが、開設当初からこの食事の理念を掲げられていたという事に驚きました。如何に「楽しい食事」を与えるかが施設の課題である。この言葉をしっかりと受け止め、施設の管理栄養士として初代園長の意思を受け継げるよう努力しなければと考えを新たにしているところです。

管理栄養士 北内 いつよ

栄養課便り番外編
『ひかり』創刊号より一部抜粋 原文のまま
心食について
慈晃園初代園長 川上慈晃
さて、老人の一番の楽しみと言えれば食事である。
如何に「楽しい食事」を与えるが施設の課題である。
「楽しい食事」、「楽しいムード」、「楽しい介助」が要請される楽しい食事の最高のものは実は「いただく食事」である。
「天地の恵み」、「社会国家の恩恵」、「祖先のご恩」、「神仏の加護」、多くの恩恵により、一度の食事でも恵まれるのである。また、それにより生きて行く。年を取る事は、「生かされている自分」を見い出す事である。同時に心にも栄養を与えねば、充実した人生とは言えない。
神仏の教えを聞き、心に歓喜を与える事が一番大切である。
これを「心食」という。
深く考えばならぬ事である。

熊本地震義援金募金についてのお礼とご報告

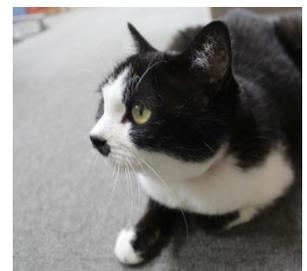
慈晃園に設置しておりました募金箱に平成28年5月31日までに皆さまからお寄せいただきました義援金の総額は35,584円となり、熊本県社会福祉協議会に振り込みをいたしました事をご報告いたします。

ご協力ありがとうございました。

特別養護老人ホーム 慈晃園

皆様からの善意ありがとうございます

エコーの会様
天草三曲会様
五十鈴の会様
陶芸サークル様



編集後記

広報紙ひかり一〇〇号を発行する事ができました。広報紙ひかりも三十一歳です。編集後記を書いていく広報委員も三十一歳同い年なのです。
三十一年前に存在していたものを自分が携わっている不思議を感じています。今後も頑張ろう!!!